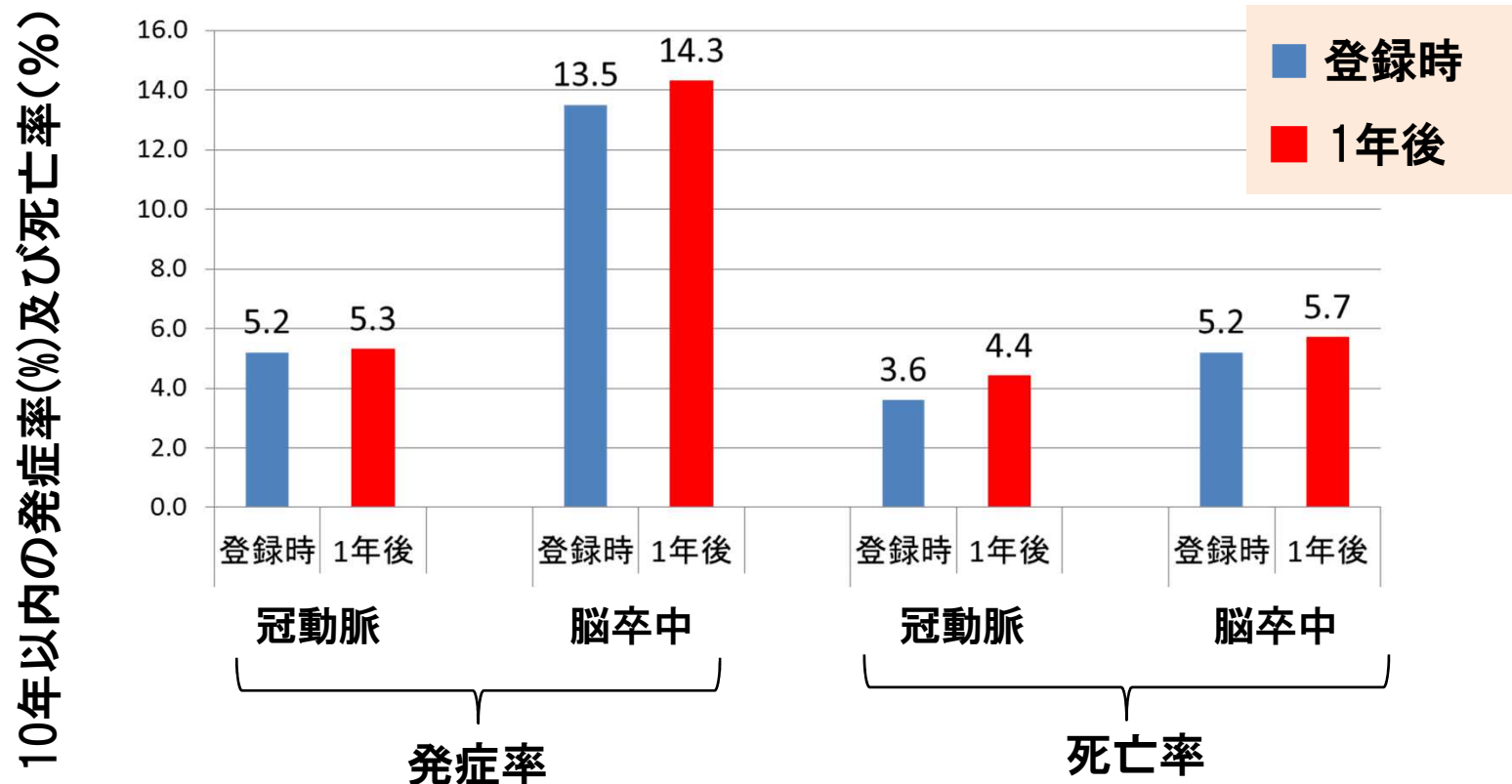


1年間の治療効果の評価

登録時と1年後の冠動脈疾患と脳卒中の発症率・死亡率の推移

■登録時と治療経過1年目での評価のできた患者40名について絶対リスクを比較。



登録時と治療経過1年目での評価のできた糖尿病患者40名について絶対リスクを比較したものです。

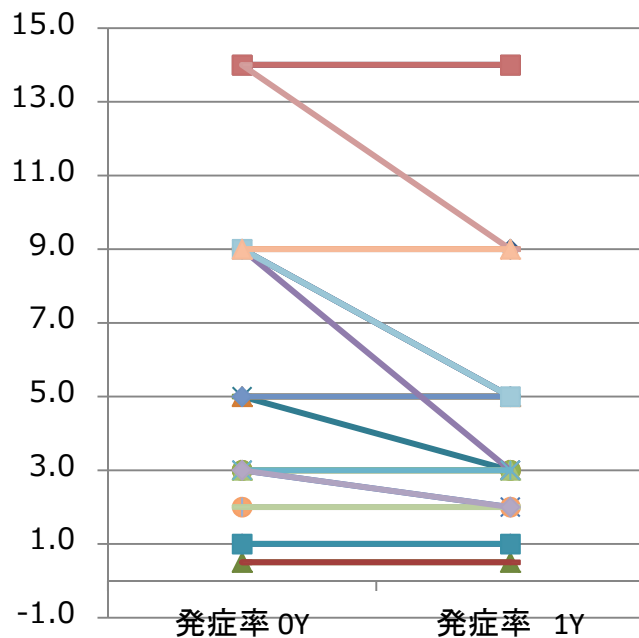
各疾患とも平均値で見ると、変化は見られませんでした。

冠動脈疾患と脳卒中の発症率の推移 1

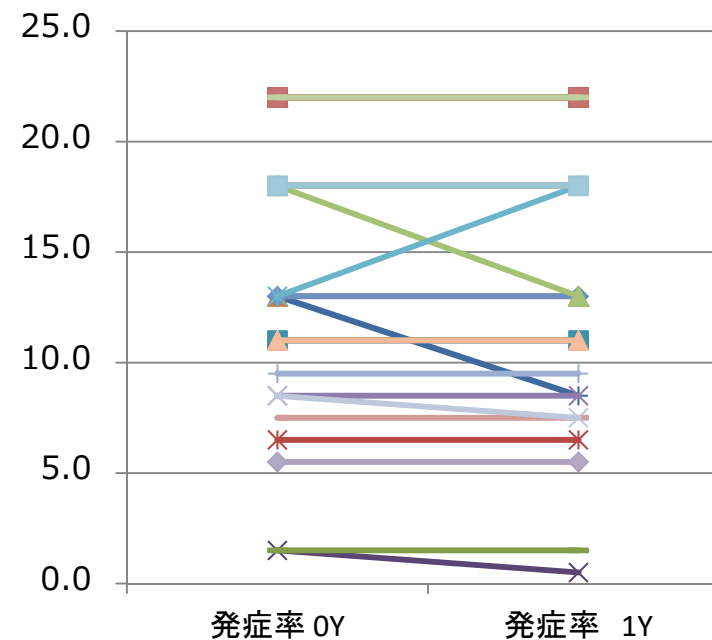
■登録時と治療経過1年目での評価のできた患者40名について絶対リスクを比較。

●発症率の不変・改善した群

冠動脈疾患(30人: 75.0%)



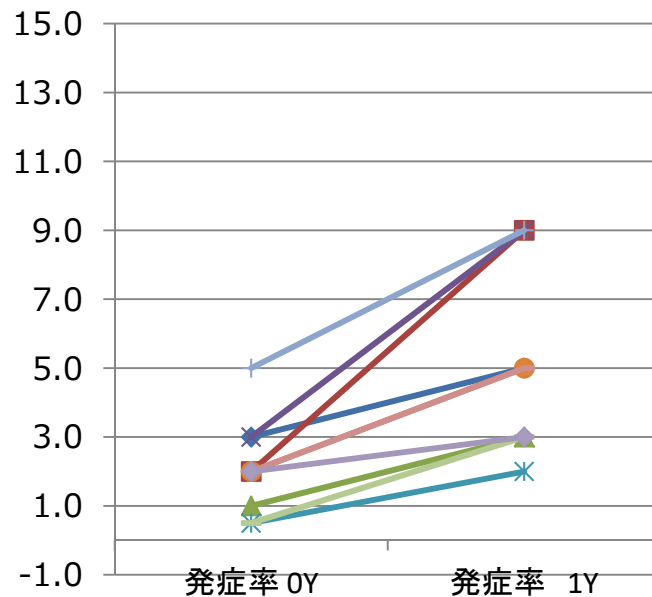
脳卒中(31人: 77.5%)



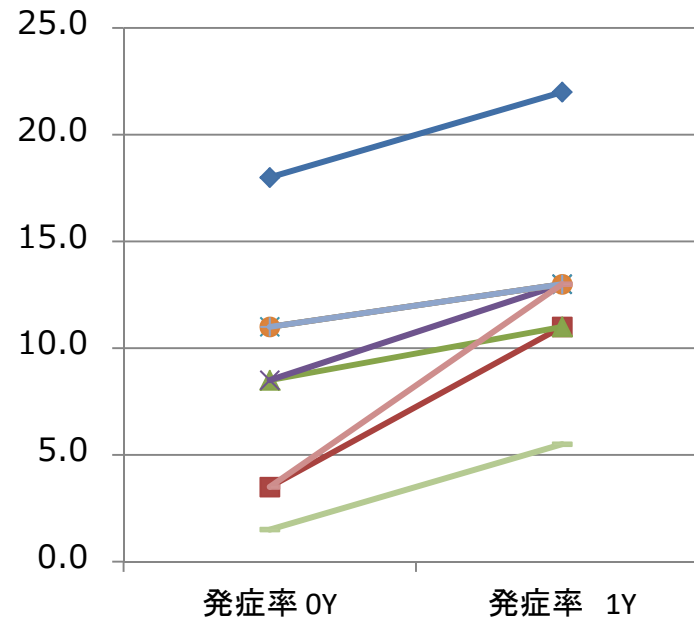
冠動脈疾患と脳卒中の発症率の推移2

●発症率が悪化した群

冠動脈疾患(10人: 25.0%)



脳卒中(9人: 22.5%)



- しかし、各患者さんの発症率をプロットしてみると、**発症率が悪化した群**のとおり発症率が悪化し治療効果が上がっていない患者さんが、冠動脈疾患で25%、脳卒中で22.5%いることが分かりました。
- 表には示しませんでしたが死亡率についても同様の結果でした。
- 我々は分け隔てなく、患者さんの治療に当たっていたつもりでしたので、この結果は正直驚きでした。
(糖尿病の無い10人を加えて、算定すると、各々16%、18%となる。)